事務局

只今から令和6年度第1回豊中市都市農業振興基本計画審議会を開催させていただきます。

開会に先立ちまして、部長の上原からご挨拶申し上げます。

上原部長 (あいさつ)

事務局

続きまして、当審議会の事務局担当職員の紹介をさせていただきます。

先ほどご挨拶させていただきました都市活力部長の上原でございます。

都市活力部次長兼産業振興課長の高島でございます。

産業振興課農政担当主幹（兼農業委員会事務局長）の山本でございます。

産業振興課副主幹兼農政係長（兼農業委員会事務局長補佐）の塩川でございます。

産業振興課副主幹（兼農業委員会書記）の渡辺でございます。

なお、本日はコンサル会社の株式会社 地域計画建築研究所から武藤さんに同席いただいております。事務局の紹介は以上でございます。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。（資料確認）

続きまして、委員の交代についてお知らせします。

一般社団法人 大阪府農業会議専務理事兼事務局長の鈴木 ^{あきら}成さま、大阪府北部農と緑の総合事務所 農の普及課長 磯和 広子さまが退任されました。

後任として、本日付で新しく委員になられる方をご紹介します。

一般社団法人 大阪府農業会議専務理事兼事務局長 北川 雅文さま

大阪府北部農と緑の総合事務所 農の普及課長 上田 知弘さま です。

以上でございます。

それでは、議長、議事進行をよろしくお願いいたします。

議長

それでは、議事を進めさせていただきます。まずは、当審議会の成立要件について事務局から報告をお願いいたします。

事務局

本審議会の成立要件は、豊中市都市農業振興基本計画審議会規則第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席が必要となりますが、本日は、5名全員の出席をいただいておりますので、審議会の成立要件を満たしております。以上、報告いたします。

また、当審議会は公開会議となっておりますが、本日傍聴される方はいらっしゃいません。以上です。

案件1)「豊中市都市農業振興基本計画について、見直しのスケジュール」について

議長

それでは、案件に進みます。本日は、お手元の次第のとおり3件の案件を予定しております。案件1の「豊中市都市農業振興基本計画について、見直しのスケジュール」について、まずは事務局のほうから説明をお願いします。

事務局

資料2に沿ってスケジュールを説明

議長

ただいま事務局から「豊中市都市農業振興基本計画について、見直しのスケジュール」説明がございましたが、何かご質問やご意見はございますか。

委員

庁内公募とは、役所の中で意見を集約するということですか。また、庁内公募はパブリックコメントに影響するものですか。

事務局

庁内の全部局に公表して、意見をいただくこととなります。庁内意見公募とパブリックコメントはそれぞれ両方の意見を聞くというものです。

委員

パブリックコメントの期間はどれぐらいですか。

事務局

一ヶ月程度と考えています。

案件2)「豊中市農業の現況について」

- ① 「豊中市都市農業振興基本計画（現計画）の総括」について
- ② 「豊中市農業の現況」について

議長

他に無いようでしたら、次の案件に移りたいと思います。
案件2「豊中市農業の現況について」の①「豊中市都市農業振興基本計画（現計画）の総括」についてと②「豊中市農業の現況」について続けて事務局から説明をお願いいたします。

事務局

豊中市都市農業振興基本計画（現計画）の総括」について、資料3に沿って説明。
「豊中市農業の現況」について、資料4に沿って説明。

議長

ただいま事務局から「豊中市都市農業振興基本計画（現計画）の総括」についてと「豊中市農業の現況」について説明がございましたが、何かご質問やご意見はございますか。

委員

資料3 P3 2-2④都市農地の貸借円滑化について、都市農地貸借の円滑化法は、平成30年度から施行され、6年が経過しているが、豊中市に限らず大阪府下で思ったほど使われていない。大阪府全体で120から130件ぐらい。そもそも農家側に農地を人に貸すことに抵抗があり、生産緑地であればなおさら意識が強いようです。また制度自体が知られていないものになってしまっているかもしれない。豊中市での実態をもう少し詳しく聞かせてください。

事務局

産業振興課農政係は農業委員会事務局を兼ねているので、耕作不十分な農地への指導を行うことも業務としてあるのですが、そのタイミングで円滑化法の制度を個別に説明を行うとともに、借りたい人とのマッチングを成立させてきました。個人だけではなく、市民活動を行う団体や、高齢者社会施設などから農地を借りたいという相談を受けた時にマッチングを行ってきました。

委員

資料3 P2 1-2①市内事業者による豊中市産農産物の利活用について、市内焼菓子店にレモンを出荷した、市内食品製造業者にじゃがいもを、市内レストランに野菜全般を出荷したとあるが、その働きかけはどのようにされたのか教えてください。

事務局

レモンについては、商工会議所さんと話をする中で洋菓子店を紹介してもらい機会があり、マッチングが成立しました。ただ持続することができず、単発に終わってしまいました。

学校給食に提供する時期が過ぎてしまい余ってしまった、たまねぎやじゃがいもを市内の食品製造業者につないでコロッケを製造し、学校給食に出してもらいました。

委員

そのコロッケはマチカネコロッケですか。学校給食だけでなく商品化されましたか。

事務局

マチカネワニの刻印をしたものです。学校給食に出してもらっただけで商品化はされていません。市内レストランへの野菜全般を出荷については、農家さんと飲食店が直接やり取りする中で成立したものです。

委員

市内事業者による豊中市産農産物の利活用については、市が介在する場合、きっかけは作れても、お金がかからむ場合、継続するのは難しいのではないのでしょうか。

委員

資料3 P2 2-1④災害時の防災機能の向上について、周知に努めるとあるが、農家自身が手を挙げて登録するものなのか、市から農家へアクションがあつて登録されるものなのかよくわからない。制度自体が固まっているものなのか、中身があまり見えてこないのですが。

事務局

防災協力農地登録制度は、農家の協力が前提のもとにあるもの。まずはご理解をいただいた上でということになるが、市として細やかな取組みができていない状況です。

委員

いざ災害が起きてからなし崩し的に農家に負担をかけるようなことになってはいけない。制度の周知もよいが中身をしっかり知りたと思います。

案件2の③「意向調査結果（ヒアリング調査結果、アンケート調査結果（速報）」について

議長

他に無いようでしたら、次の案件に移りたいと思います。
案件2の③「意向調査結果（ヒアリング調査結果、アンケート調査結果（速報）」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

ヒアリング調査結果について、当初市内農業者 500 名、無作為抽出した一般市民 1,000 人にアンケートを実施することを予定していましたが、今回は中間見直しということで、計画策定時と同じ手法であれば前回と同じような内容になってしまうのではないかとということで、より本計画の内容に深くかかわっておられる方にヒアリングを行う方が有効と判断し、関係者へのヒアリング調査を行ったものです。
ヒアリングの内容は資料5に沿って説明。

市民アンケートについて、関係者ヒアリングをする中で、市民の方がもっと農業にかかわるのではないかと、子どもさんがかかわるのではないかと、農家さんがしんどくなった時に新たな担い手に引き継いでいけるのではないかとこのニーズがあった。市民農園を利用されている方は一定のスキルや経験があり、次のステップへ進んでもらう可能性があるのではないかとこの仮説を立て、市民農園利用者 300 人へのアンケートを行いました。
アンケート速報について資料6に沿って説明。

議長

ただいま事務局から「意向調査結果（ヒアリング調査結果、アンケート調査結果（速報）」について説明がございましたが、何かご質問やご意見はございますか。

委員

市民アンケートの対象者は全員豊中市民ですか。回収率 82.3%はかなり高い数字だが、こういった手法でアンケート調査をされたのでしょうか。

事務局

すべて豊中市民です。手法は郵送で、2年以上利用されている方を中心に 300 人抽出しました。

委員

実際に市民農園を利用している方が対象なので、自分たちの意見を出すことができる場としての認識で回収率が高くなったのではないのでしょうか。

委員

総じて関心、意欲が感じられる。資料6 p7 参画の意向（1）①の結果からもこのあたりの層を掘り起こしていけば援農隊につながるのではないのでしょうか。

事務局（コンサル）

援農隊については、農家側としてはいろいろなことを平行してやっているので頼みにくいという意見がありました。役所側の事務負担も増えミスマッチが起こる可能性が高い。きちんと対価が支払われるしくみがあれば援農隊も実現可能ではないか。アンケートでは参画したくない回答も多くあり、今の状況で満足している、高齢のためが理由に挙げられます。

委員

援農隊について、作業が多岐に渡っており金銭的に折り合わないことがネック。資料5 4（4）のように農作業をする側が年会費を支払って農作業をしているケースもあるので、工夫すればできることもあるかもしれないが、しくみ作りが難しい。

委員

資料6 アンケート p5 で、市民農園の面積、価格、利用期間の拡大について聞いているが、市としてやろうと思えばできることなのですか。

事務局

m²数を上げることは難しい。ニーズが高いのでm²数を上げると区画数が減ってしまうので。面積を広げたい人には、市民農園としてではなく、例えばグループ化して別

の広い農地を借りてもらってやりたい気持ちを応援するなどの方法があるのではないかと考えています。

利用期間については、3年は実現可能。事務負担も軽減できる。

事務負担は増えるが、連続当選した人には元使っていた同じ区画を使えるようにすることも考えています。

委員

事務負担がかかるかどうかということもあるが、コストが上がるからできないという類のものではない。

トイレを作るなどハード的なものは投資が必要だが、アンケート結果からみてもあまり必要ではないと考えられる。

案件3)「計画の見直しに向けて」について

議長

他に無いようでしたら、次の案件に移りたいと思います。

案件3「計画の見直しに向けて」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

新チャレンジプロジェクト（たたき）について資料8に沿って説明
続いて見直し案 数値目標について資料7に沿って説明

議長

ただいま事務局から「計画の見直しに向けて」について説明がございましたが、何かご質問やご意見はございますか。

計画の見直しの方向性、新チャレンジプロジェクトについて、既存のチャレンジプロジェクトの見直しについて、数値目標の見直しについて等意見ををお願いします。

委員

新プロジェクトは、マッチングが重点的になっている。3種の農園について出てきているが、農地を使うという点では、貸すことができる農地の把握、借りたい人の把握という工程は3種の農園も新プロジェクト4のマッチングも同じではないか。

しくみとしてバラバラのものにする必要があるのか。一本化している方が一体的に把握できるのではないか。出口は違うが中間段階では一体化した方がいろんな意味ではコスト的に小さくてすむのではないか。

委員

新プロジェクト3について、花と緑のネットワークでとよっぴー農園を長年やってきたが、今後どのように広げていくか考えているところです。

自然農という化学肥料に頼らない農業が若い方を中心に人気がある。自給農のコーナーや親子体験などさまざまな取組みを行っている。持続できるようにやっていきたい。コミュニティ農園をやることには賛成です。

委員

コミュニティ農園をする側にメリットがあるのはわかるが、従来の市民農園からコミュニティ農園にシフトするにあたって農家の人にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

事務局

直接的なメリットは耕作困難な農地を他人に使ってもらえる。そのことによって活性化する。その農産物を使った複合的な効果を期待でき、ひいては農家の人の意欲が上がることも期待できるのではないかと考えます。

委員

税制的なメリットがある。市民農園にすると管理が難しいが、体験型にすると比較的農家の自由にできる。コミュニティ、グループは煩雑さがなくなるなどのメリットがあるのではないかと想定しました。

農家側のメリットを把握してもらうことが重要。一方的ではなく、お互いにメリットがないと持続が難しい。

委員

資料7 基本的方向性2-1④災害時の防災機能の向上について、資料3の中で説明があった防災協力農地登録制度のことを想定されているのか確認したい。

もう一点、生産緑地制度の活用において特定生産緑地の指定については、30年経過したものを指すので、件数としてはわずかだと思うが、見直しの目標になるのが疑問に思ったので確認したい。

事務局

2-1④災害時の防災機能の向上については、現計画の総括(資料3)に記載のとおりで、まずは制度の周知を進めていくことを目的としておりますので、目標数値は定めておりません。

2-2③特定生産緑地については、おっしゃる通りで30年経過した生産緑地の新たな10年の指定のことを指していますので、件数はそんなにはないですが、若干対象は残っておりますので、2-2②と統合し、生産緑地を増やすことを目的として統合しております。

委員

ご存じかもしれませんが、市民農園のところについては、国の交付金「都市農業共生推進等地域支援事業(農山漁村振興交付金)」が活用できますし、防災協力農地の井戸についても国庫補助金を活用できたと思います。

農業会議でも国の補助金を活用した実績があるし、貝塚市さんなどでも国の補助金を活用して、防災協力農地を整備された実績があります。

事務局

都市農地で活用できる国庫補助金は限られていると思うのですが。

委員

国の都市農業室という部署がやっている地域支援事業があるので活用してはどうか。

委員

資料7 施策体系1-2③農業施設等の導入支援について、高齢化や猛暑での作業等に対応した補助対象の拡大とあるが、具体的にイメージしていることはあるか。

事務局

現行の「農業近代化施設等事業補助」制度を今日的な内容に変えていくものです。具体的には、猛暑下での農作業を楽にするための衣服、作業しやすくするものを補助対象に加えることを想定しています。

委員

新チャレンジプロジェクト1について、収穫体験を身近にできるのはいいことだが、せっかくやるのなら体験だけに終わらせるのはもったいない。例えばとれたさつまいもで何かを作る、じゃがいもで「豊中ポテト」を作るなどすれば、もっと参画したい人が増えるのではないか。横への展開ができるのではないか。体験の収穫物を使って何かを作り出すというのが最も素晴らしい。

事務局

最終的にはそのような形になればよいと思っている。
まずは作るところから始めたい。

委員

いいものができた時に横展開することは、コストはそんなにかからないのでやっていけばよいと思う。自治体が介入した時に個別にやっている事業を横展開できるというのが、自治体の役割でもあるので、こういったことを意識的にやっていけば、コストがかかることではないので、やっていけばよいと思う。

また1-2③農業施設等の導入支援について、空調服への補助はいいことだと思う。

委員

3-1③学校給食での豊中市産農産物の利用促進について、21,000人の子どもがいるので提供するのは大変だが、とよっぴーを使って作ったねぎやたまねぎを作って給食に入れてもらっている。

収穫期が長いもの、サイズの指定など苦勞があり、入れてくれる農家さんは減っていると聞いている。

ただ、子どもたちにとっては食育の大事な機会になっている。

給食でとってもらえないたまねぎをお祭りなどで買い取ってもらえるシステムがあれば

ば、農業者も安心して生産できる。そのようなしくみがあればいいと思う。

事務局

学校給食側では数量が足りていないとの認識。買取価格は低い。学校給食課へ価格について働きかけはしている。売れなかったものを売る場（朝市など）の提供もしている。

議長

皆様のご意見も出つくしたようですので、このスケジュールと内容で、計画の見直しについてすすめていくこととします。委員の皆様には引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、最後の案件その他に進みますが、事務局は何かございますか？

事務局

本日の会議録についてですが、事務局で作成した案を、後日、委員の皆様にご確認いただき、内容を確定させていただきます。

確定ののち、会議録の概要を、市ホームページなどで公開いたします。

それから次回の審議会開催日程についてですが、12月中旬を予定しております。後日日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

議長

委員の皆さん、他に何かございますか。

（意見なし）

本日予定しておりました案件は以上で全て終了いたしました。

議事進行のご協力ありがとうございました。これで、令和6年度第1回豊中市都市農業振興基本計画審議会を閉会いたします。